



北区の部屋だより 第171号

2023年11月



刊行物登録番号4-2-135

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」 〒114-0033 北区十条台1-2-5 ☎03-5993-1125 令和5年11月発行

北区 こぼれ話 第171回



渋沢栄一が王子町青年団発団式で訓話 ～自らの陸爵祝賀会当日に～

渋沢栄一は、大正9年(1920)9月、子爵を授けられました。それまでは、一つ下の男爵でした。爵位が上がることを陸爵と言います。爵位は高い順から、公爵・侯爵・伯爵・子爵・男爵となっていました。例えば、伊藤博文は公爵で「伊藤公」と呼ばれ、大隈重信は侯爵で「大隈侯」と呼ばれました。渋沢はそれまで「渋沢男」であったものが「渋沢子」へ変わったわけです。男爵が多い財界人の中にあって、渋沢がもう一段陸爵したのは異例のことでした。渋沢の陸爵祝賀会は、大正10年(1921)5月1日、西ヶ原の渋沢邸で開催されました。



この日、西ヶ原に近い王子でも、大きな式典がありました。王子町青年団の発団式が開催されたのです。会場は、王子劇場という建物でした。朝から花火が打ち上げられ、午前9時10分に開会、館内は満員になりました。全員が起立して教育勅語を奉読し、その後、議事に移り、団則の決議、団長の決定、団長挨拶、役員選挙などへ進みました。さらに、北豊島郡長の挨拶、地元選出代議士の挨拶など、来賓の祝辞が始まりました。そして、この祝辞の最中、ある人物が現われたのです。当時珍しかった自動車に乗って、渋沢栄一が登場しました。

この式典についての記述がある「高木助一郎日記」(北区の部屋で公開)で確認してみましょう。

此ノ時、自動車ヲ駆ツテ渋沢子爵閣下ノ御来場アリ、直子ニ八十二歳ノ老軀ヲ檀上ニ運ビ、予等青年ノ為メニ約二十分ニ及ブ訓話アリ、聴衆厳肅ニシテ水ヲ打タルガ如シ、終ルヤ直子ニ帰ラル

渋沢栄一は、なんと、自分の陸爵祝いの当日に、王子劇場へ駆けつけ、青年たちのために訓話をしたのです。「高木日記」には、つぎのようにあります。

本日ハ渋沢子爵邸ニ於テハ朝野ノ各名士ヲ招ジテ陸爵ノ祝賀会ヲ催ホサル、ニモ係ラズ、特ニ予等青年ノ為メ御臨場ヲ賜リタル次第深く各員感謝スル処ナリ

青年団関係者は、このような日に渋沢に登壇を頼んだところで、本人が来場する可能性は低いと考えていたのでしょうか。一般的に、政治家や財界人が、自分自身の祝いの行事と、様々な式典が重なった場合、式典には代理を出席させることが多いように思われます。渋沢の祝賀会と、王子町青年団の発団式のどちらが先に日程を決めていたのかは分かりません。いずれにせよ、発団式をこの日に定めたことについて、彼ら青年たちは、不運に思ったことでしょう。そうした中で、渋沢本人が現われたため、青年たちは感激したものと考えられます。「私を去り公に就く」ことを説いた渋沢栄一らしいエピソードです。

【地域資料専門員 黒川徳男】





平塚神社（上中里 1-47-1）の狛犬

北区の部屋 今月の展示

こま いぬ 狛 犬

- ・展示期間：10月27日（金）～11月23日（木）
- ・展示場所：「北区の部屋」企画展示コーナー

私たちが神社の入り口や境内で見かける狛犬。よく見るとそのかたちは一様ではなく、神社によって様々なかたちをしています。そこで今回の展示では、北区内の神社の狛犬を一堂に会してみました。みなさんはどの狛犬が好きですか？



公開歴史講座

関東大震災から 100 年

— 検証・北区の被災と復興 —



日時 12月2日（土）午後2時～4時
 会場 中央図書館3階 ホール
 講師 当館地域資料専門員 黒川徳男
 対象 北区在住・在勤・在学中で中学生以上の方
 定員 40名（申込多数抽選）
 申込 往復はがきに右の必要事項を記入のうえ、
 お申込みください。
 11月10日（金）（必着）まで

- ①往信用裏面：講座名
 郵便番号、住所
 氏名（ふりがな）
 年齢、電話番号
- ②返信用表面：申込む方の住所
 氏名を記入

※視覚障害のある方は電話、聴覚障害のある方はファックス可。
 ※障害のある方で付添いが必要な方は付添い1名まで可。（その旨はがきに記入）
 ※会場にはヒアリングループ補聴援助システムが設置されています。

◎申込み/問合せ 〒114-0033 北区十条台1-2-5 中央図書館 図書係
 TEL：03-5993-1125/FAX：03-5993-1044



江戸時代、滝野川の『滝野川にんじん』や『滝野川ごぼう』がブランド野菜だったそうです。食欲の秋にこんな本はいかがでしょう。

「江戸東京野菜 物語篇」^{おおたけみちしげ}大竹道茂 著
 農産魚村文化協会

江戸時代から食生活を支え、食文化を育んだ「江戸東京野菜」。
 江戸東京野菜とは何か、中山道に近い滝野川村あたりが種屋街道と
 呼ばれるなりたちなど、江戸東京野菜にまつわる物語を紹介しています。



書誌番号（B10851547）



北区の部屋だより

2023年 12月 第172号



刊行物登録番号 4-2-135

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台1-2-5 TEL.03-5993-1125 令和5年12月発行

北区 こぼれ話 第172回



どうつかさ ほんとう 「惣司」って本当?! —王子稻荷神社の話—



北区の岸町に所在する王子稻荷神社は、東国三十三ヶ国の稻荷神社の惣司(『江戸名所記』等では関東稻荷明神の棟梁とあります)とされ、毎年大晦日に各地の稻荷神社から使いの狐が参拝に訪れるという伝承がありました。集まった狐たちはまず王子村にあった榎(装束榎)の下で衣装を整え、それから稻荷に参拝しました。「狐火会」とも呼ばれるこの不思議な現象を一目見ようと、大晦日の夜には大勢の江戸市民が王子の地を訪れていたといえます。現在では、この話を題材にした「王子狐の行列」祭りが大晦日の夜に盛大に催されているので、歴史好きではなくともこうした伝承をご存知の区民の方も多いのではないのでしょうか。

さて、この話を知っている方にあえて聞きます。話の内容に疑問をもったことありませんか? 王子稻荷神社が東国三十三ヶ国の稻荷神社惣司って誰が決めたのか。そもそも誰にそんな権限があって、いつ、どんな経緯で王子稻荷神社を惣司にしたのか。何より王子稻荷神社が惣司って本当なのか、ということ。実はこのことについて幕府が直々に調査に乗り出したことがありました。

調査が行われた契機は、王子稻荷神社に掲げられた額の架け替えでした。それ以前から「惣司」の文字はあったものと思われませんが、寛政3年(1791)の架け替えにおよんで、額の刻まれた「惣司」の文字が改めて問題になったのです。

『祠曹雑識』という寺社奉行所の記録によれば、寺社奉行松平右京亮(輝和)に呼び出された別当金輪寺は、縁起の絵巻(『若一王子縁起絵巻』)に「以下ノ画毎年十二月晦日ノ夜関東三十三ヶ国ノ狐稻荷ノ

社へ火ヲ燈シ来ル図ナリ、此松ハ同夜狐集リテ装束スト云伝フ故ニ衣装島又ハ装束場トイウ」と下ケ札(※ここでは絵巻につけられている張り紙のこと)があることから、王子稻荷を「惣司」と認識してきたと回答します。そこで、この下ケ札が問題となるのですが、奉行所で調査してもいつ、誰が、どの段階で絵巻に下ケ札を貼ったのか判然としませんでした(「臆不相分」)。また、幕府が保持する絵巻の詞書のことでしょうか、「御本紙」には下ケ札がないことも確認され、「東国惣司」と称した濫觴(※始まりのこと)については全くわからなかったというのです。その結果、ちゃんと調べもせず過ぎしてきた別当金輪寺は「不束」(※ここでは「不届」(けしからぬこと)と同意)と判断されるのですが、以前から称し続けてきたものであり、現在の住職だけ処罰するわけにはいかないとしてお咎めなしとしつつ、それでもこれまで稻荷で掲げてきた外陣の額や幟など「惣司」とあるものについては全て奉行所へ取り上げ、架け替えの額の文字については改めて奉行所へ届け出るようにと申し渡されるのでした。

このように記すと王子稻荷神社の「惣司」が否定されたようにもみえますが、その後には版行された様々な書物でも「惣司」と記すものが多く、例えば文化10年(1813)の序をもつ『遊歴雑記』初編にも「関八州の稻荷司とかや」と記しています。その意味では、実際のところはよくわからないものの、400年にわたって広く人々の間に定着し、そう信じられてきた、実態としての「惣司」だったといえるかも知れません。

【地域資料専門員 保垣孝幸】

北区の部屋・今月の展示 「平成元年頃の北区～王子・十条地域～」



写真：建設中の北とびあ

■展示期間 11月25日(土)～12月28日(木)

■展示場所 「北区の部屋」企画展示コーナー

長く続いた昭和が終わり平成という時代に入った35年前。この頃を境に北区の景観も大きく様変わりしていきました。今月の展示では、平成元年頃にスポットを当て、かつての北区の王子・十条地域を見ていきたいと思ひます。



北区図書館活動区民の会 企画・運営 小学生向けワークショップ

「親子で探検！中央図書館ナイトツアー」開催のお知らせ

誰もいなくなった夜の図書館を大冒険。普段は何気なく利用しているこの場所は実は……。親子で探検！歴史の核心に迫る！！

【対象】区内在住の小学生とその保護者（6年生優先、保護者同伴必須）

【日程】令和6年1月7日（日）午後4時45分～7時

【場所】中央図書館（3階ホール集合）

【定員】12組（小学生1名・保護者1名の2人1組 応募者多数の場合、抽選）

【申込先】〒114-0033 北区十条台1-2-5 北区立中央図書館 図書係

TEL：03-5993-1125/FAX：03-5993-1044

【締切】12月12日（火）必着

※往復はがきでのお申込みの方

往信用裏面にイベント名、郵便番号、住所、参加者全員の氏名（ふりがな）お子様の学年、年齢、電話番号、返信用表面に住所、代表者名を記入の上、お申込みください。

※FAXでのお申込み（自宅にFAXのある方のみ）の方

申込書は区内全図書館に置いてあります。ホームページからダウンロードもできます。



中央図書館刊行物・新刊本のご案内

「北区こぼれ話3」刊行しました！

このたび、北区に関する雑学や豆知識を紹介する「北区こぼれ話」の第3弾を刊行しました。この「北区の部屋だより」で連載中のコラム「北区こぼれ話」の第101回から150回までの50話に、おまけコラム3話を加えてまとめた冊子です。区内図書館でご覧いただけるほか、下記の場所で購入いただけます。ぜひ、手に取ってご覧ください。



頒布場所：中央図書館・滝野川図書館・赤羽図書館

北区役所内区政資料室

頒布価格：200円(税込)

詳細：B5判サイズ/全112頁

執筆：黒川徳男・保垣孝幸

編集・発行：北区中央図書館

書誌番号：B13320808



黒川地域資料専門員



保垣地域資料専門員

12月2日（土）開催予定の公開歴史講座「関東大震災から100年—検証北区の被災と復興—」は講師急病により中止となりました。お申込みの皆様にご詫言申し上げます。



2024

北区の部屋だより

2024年1月 第173号



刊行物登録番号 4-2-135

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 TEL03-5993-1125 令和6年1月発行

北区
こぼれ話
第173回

陸軍被服本廠の宣誓は膝丈スカートで —女子挺身隊入所式の写真を考える—



この写真をご覧ください。膝丈スカート姿の女性が、軍人の前で何かを読み上げています。『写真週報』昭和17年(1942)2月4日に大きく掲載された写真です。この本は、戦時中に政府の情報局が発行した週刊のグラフ誌です。記事の内容は、陸軍被服本廠への女子挺身隊入所式について報じたものでした。陸軍被服本廠は、現在のヌーヴェル赤羽台(赤羽台団地)の位置にありました。軍服などを製造する陸軍省直轄の工場です。女子挺身隊は、独身女性のうち、就職せず学校へも通わない人々を募集し、軍工廠などに勤務させるために組織されました。自ら志願することが原則でした。

この写真の説明文は「軍属として入所する彼女たちは軍属の本分を完了すべきことを宣誓する。

『しつかりやらう』銃後女性の頼もしい決意が六百の胸に通ふ」という軍国調のものでした。しかし、この写真に違和感を持たれる方も多いでしょう。その違和感は、宣誓をしている女性の服装にあります。戦時中の女性の姿と言えはモンペが一般的です。この女性がモンペ姿であったなら、何の不思議もなかったのです。

では、この写真をどう解釈したら良いのでしょうか。例えば「被服本廠への入所を希望するということは、洋裁やファッションに興味があるオシャレな女性だったのだ」と考えることができます。しかし、深読みすると、この服装は陸軍や情報局の演出であったと解釈することもできます。そもそも『写真週報』は国策宣伝のために刊行された雑誌だからです。この記事では、女子挺身隊について、つぎのように語られています。「映画やデパート廻りに来る日来る日をつぶしてゐたのは遠い夢……生き甲斐これか、教育期間が済んで、それぞれの職場についた彼女たちの感想である」(原文どおり)。毎日、娯楽や買い物ばかりの日々を送っていた無職の独身女性たちが、軍属として生き甲斐を見つけるというのが、この記事全体を貫くストーリーなのです。つまり、演出として、入所式の段階では、映画やデパート三昧の女性の姿が必要であり、そのような人物像を膝丈スカートという服装で表したと解釈できるのです。深読みのしすぎでしょうか。

【地域資料専門員 黒川徳男】

北区の部屋・今月の展示「北区に残る空襲の痕跡」



【展示期間】1月5日(金)～1月24日(水)

【展示場所】「北区の部屋」企画展示コーナー

空襲で被災しながらも今も生き茂る大樹。「戦災樹木」と呼ばれています。JRの新河岸川橋梁に残る被弾の痕。区内にわずかに残る防空壕。昭和20年(1945)4月13日そして8月10日、北区は大規模な空襲に見舞われました。区内各地には、今も空襲被害の跡とされるものが散在しています。今回の展示では、そのような戦災樹木・防空壕跡・空襲の爪痕についてご紹介します。

▲上田端八幡神社の戦災樹木：空襲の傷痕をふさがれたイチョウ



公開歴史講座・振替開催のお知らせ 「関東大震災から100年 一検証・北区の被災と復興」 関東大震災から100年、北区の被災と復興をさまざまな角度から検証します。

12月2日開催予定で中止となった、公開歴史講座を振り替えて行うこととなりました。参加者は、前回お申込みされた方が優先となりますが、追加募集もいたしますのでお知らせします。ぜひお申し込みください。(前回お申込みいただいた方には、別途ご連絡いたします。)

- | | | | |
|-----|---------------------|-----|------------------|
| ●日時 | 令和6年2月24日(土) 14～16時 | ●対象 | 北区在住・在勤・在学で中学生以上 |
| ●場所 | 中央図書館 3階ホール | ●募集 | 10名程度(追加募集・抽選あり) |
| ●講師 | 黒川 徳男 地域資料専門員 | ●切 | 令和6年2月5日(月)必着 |

●申込 往復はがきにて下記必要事項を記入の上、期日に間に合うよう投函してください。

★往信用裏面：講座名、郵便番号、住所(在勤・在学地)、氏名(よみがな必須)、年齢、電話番号

★返信用表面：申込む方の住所、氏名

※視覚障害・聴覚障害のある方は電話・ファクスにてお申込み可。

※障害のある方で付添いが必要な方は付添人1名まで可(申込時、その旨記入のこと)

※会場にヒアリンググループ補聴援助システム設置あり



- 宛先 〒114-0033 北区十条台1-2-5 北区立中央図書館・図書係
TEL:03-5993-1125 / FAX:03-5993-1044

*** 地域資料・今月の一冊 *** 「音無橋、たもと屋の純情 一旅立つ人への天津飯」



——北区・音無橋のそば。生死不問でご来店お待ちしております。——

会社になじめず、身も心も疲れ果てた凜々が訪れた「たもと屋」は、音無橋近くにある定食屋です。不愛想でも面倒見のいい店主と、個性的で訳アリな常連と、心残りのある死者たちと。生きた人とそうでない人たちがおりなす、ちょっと不思議でせつない物語。

音無橋は北区役所の近く、音無川に架かる橋です。王子界隈が舞台となっており、王子駅、飛鳥山、都電荒川線など、なじみある名称がたくさん出てきます。さりげなく音無川の歴史にも触れていたり、登場人物の視点

で描かれる王子・飛鳥山界隈の描写には、「そうそうそう！」とその情景がリアルに目に浮かぶのではないのでしょうか。

興味を持たれた方がいましたら、ぜひご一読ください。



書誌番号 B12727805
著者 竹岡葉月
発行 集英社(オレンジ文庫)



北区の部屋だより 第174号

2024年2月



編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」 〒114-0033 北区十条台1-2-5 電話03-5993-1125 令和6年2月発行



どんど焼きはどこに？！

早いもので新年を迎えてひと月が経ちました。正月気分ももう吹き飛び、慌ただしい年度末を迎えている「北区の部屋」ですが、みなさんはいかがお過ごしでしょうか。さすがにまだ正月飾りを飾っている家もないかと思いますが、では、みなさんはこうした飾りを降ろした後、どうしましたか？

かつてはどんど焼き(とんど焼き、松焼き、セイトバライなど地域によって呼び方は異なります)と、門松やしめ縄など正月に用いた飾りを焼く行事が各地で行われていました。焼いた煙に乗って年神様が帰るとか、煙で体をあぶると良いとか、この火で餅やだんごを焼いて食べると病気になるとか、様々な言い伝えとともに行われた行事で、神社を中心に地域ごとに行われたり、個々の家で行われたりしました。この「ことば話」をお読みの方の中には実際にお飾りを焼いた経験のある方、そのことをご記憶の方も多いのではないかと思いますが、1977～78年(昭和52～53)にかけて東京都教育委員会が実施した緊急民俗文化財分布調査によれば、北区上十条

および十条仲原あたりでは、門松の燃え残りの

竹を垣根に刺して置くと魔除けになると言い伝えられていたことが紹介されており、十条周辺でもどんど焼きが行われていたことをうかがわせます(『東京都民俗地図』東京都教育庁社会教育部文化課、1980年)。

しかし、広い場所が必要で、加えて火や煙が出るどんど焼きは、現在の東京では目にするのが難しい行事となっています。「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例」(平成12年<2000>公布)で、かつてに屋外で廃棄物を焼却することが禁止されている東京都でも「伝統的行事及び風俗慣習上の行事のための焼却行為」は例外とされ、どんど焼き自体が禁止されている訳ではありません。それでも(例外として認められる場合でも)「周辺地域の生活環境への支障の防止にできるだけ配慮する必要があります」(北区リーフレット「屋外での焼却は禁止です」とあるように、周辺への影響を考えるとなかなか実施することが難しい行事となっているようです。北区西ヶ原の七社神社でも、かつては「神符焼納祭」としてとんど焼き(※七社神社では「とんど焼き」と称していました)がありましたが、現在は行われていません。

人々の暮らしぶりや生活環境、ものの考え方などの変化を考えれば、ある意味当然なのかも知れませんが、自治体指定のごみ袋に入れられ捨てられている正月飾りを目にする、やはり時代の移り変わりを感じざるを得ないものです。

(地域資料専門員 保垣孝幸)



下村記行 (しもむらきこう)

★展示期間：1月26日(金)～2月21日(水)

★展示場所：「北区の部屋」企画展示コーナー

江戸時代に下村(現在の北区志茂)の名主を務めた富田家の岩五郎という人物が書き残した「下村記行」という資料があります。今月の展示では、この「下村記行」から江戸時代後期の下村の様子を紹介いたします。



下村の鎮守熊野神社 (現在の様子)

公開歴史 講座ご案内

「江戸近郊地域と西ヶ原の植木屋」

広大な庭園を持つ大名屋敷や寺社が立ち並ぶ江戸。その周辺地域では植木屋が発達しました。これまであまり語られてこなかった北区域の植木屋について、専門家がわかりやすくお話しします。



日時：令和6年3月9日(土)14時～16時

場所：北区立中央図書館3階ホール

講師：保垣 孝幸 地域資料専門員

対象：区内在住、在勤、在学で中学生以上

定員：40名(抽選)

締切：2月15日(木)

【問合・申込先】

〒114-0033 北区十条台 1-2-5

北区立中央図書館図書係

TEL03-5993-1125 FAX03-5993-1044

【申込方法】 往復はがきの往信用裏面に講座名、郵便番号、住所(在勤・在学地)、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号、返信用表面に申込者の住所、氏名を記入し、下記申込先まで。

*視覚障害のある方は電話申込可。聴覚障害のある方はFAX申込可。

*障害のある方で、付添人が必要の方は1名まで可(その旨申込時に記載のこと)。

*会場にはヒアリングループ補聴援助システムあり。



「親子で探検！中央図書館ナイトツアー」 開催しました！

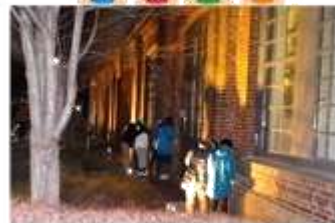


★開催日：1月7日(日) ★企画 運営：北区図書館活動区民の会

毎年大人気の小学生向けワークショップ「中央図書館ナイトツアー」、今年も夜の図書館の探検に出発しました。

閉館後の薄暗い図書館。懐中電灯片手に中央図書館の謎にせまります。図書館を支える古い柱(ラチス柱)、赤レンガの謎…。

参加者アンケートには「ふだんは入れない場所に入れて楽しかった」「宝探してみたいに遊ぶことができてたのしかった」「いろいろ豆知識が聞けてよかった」などなど、うれしい感想がたくさん！今年では従来のチェックポイントに謎解き要素もプラス。宝探しのようないヒント獲得エリアは、子どもたちはもちろん、保護者の皆さんからも好評をいただきました。



赤レンガの刻印探し



暗号はうまく解けたかな？

北区こぼれ話第175回

戦災樹木 植物に刻まれた空襲の歴史

戦災樹木とは、空襲を受けた地域に現存する樹木のうち、その被災が記録され、あるいは語り継がれ、実際に損傷の痕跡が確認できるものを指します。区内においては、民家の庭でも戦災樹木が確認されていますが、ここでは、公園や神社など、容易に観察できる3ヶ所を示す

場 所	樹 種	所 在 地
王子神社	イチヨウ	王子本町 1-1-12
名主の滝公園	ケヤキ・スダジイ	岸町 1-15-25
上田端八幡神社	イチヨウ・ケヤキ	田端 4-18-1

ことにします。いずれも、昭和20年(1945)4月13日夜から翌日の空襲によって被災した木々です。

区内の戦災樹木として最も有名なものは、王子神社の大イチヨウでしょう。樹齢は、約600年とされ、東京都指定天然記念物となっています。

名主の滝公園にも戦災樹木があります。最も見つけやすいのは、男滝の前にあるケヤキです。空襲の影響で、不自然に変形しています(写真①)。

これらと比べて、圧倒的に痛々しい姿を残しているのが上田端八幡神社の戦災樹木群です。鳥居付近から右側を見ると、イチヨウの木があります。幹に裂け目があり、モルタルのようなものでふさがれています(写真②)。さらに、境内と八幡坂の境には、ケヤキがあります。上の方で幹が欠損し、下の方の焦げた幹は、新たな樹皮に左右から抱え込まれて、まるで3本の木のように見えます(写真③)。さらに、境内には、寿命を迎えたケヤキの切株も



(写真①名主の滝
男滝前のケヤキ)



(写真②上田端八幡
神社のイチヨウ)

これら戦災樹木の痛々しくも、たくましい姿は、空襲の悲惨さと、植物の生命力を私たちに示しているかのようです。

【地域資料専門員 黒川徳男】

あります。幹に大きな空洞があり、その中には焼け焦げた跡があります。令和5年(2023)5月発行の菅野博貢氏著『甦る戦災樹木』(さくら舎)には、この木が切られる前のカラー写真が掲載されていました。しかし、同年10月18日に訪ねてみると既に伐採され、下の写真④のような状態でした。焼けた空洞の大きさを示す痛ましい切り株でした。

なお、境内には、折れた鳥居の跡や、黒く焦げた石柱もあり、空襲の被害を示すものと伝えられています。



(写真③上田端八幡
神社のケヤキ)



(写真④上田端八幡神社
ケヤキの切株)

北区の部屋今月の展示

石神井川の緑地ぶらぶら歩き

- ・ 展示期間：2月23日（金）～3月28日（木）
- ・ 展示場所：「北区の部屋」企画展示コーナー

石神井川の周辺には「〇〇緑地」と呼ばれる公園のような場所があります。これらの緑地は、なぜ造られたのでしょうか？

かつての石神井川は、台風や大雨のたびに水害の元凶となっていました。その原因の一つは曲がりくねった川筋にありました。昭和40年代、石神井川のカーブを緩やかにする工事が行なわれました。その工事により、かつて流路だった土地に「緑地」が造られました（例外もあります）。それらの緑地を訪ね歩くことは、北区の歴史や自然を学ぶのに最適です。今回の展示では、これら石神井川の緑地についてご紹介します。



【写真 音無もみじ緑地】

地域資料紹介



私たちにできること WHAT WE CAN DO.

私の声かけで、東京をおもてなしの街にする。

東京都産業労働局観光部受入環境課 書誌番号：B13352913

外国人旅行者や高齢者・障害者等が安心して都内での観光を楽しめるよう、状況別に道案内や簡単な介助方法などの具体的な声かけ事例を分かりやすいイラストと共にまとめています。声かけの背中を押してくれる1冊です。関連情報も掲載。多様性が尊重された社会は、誰にとっても暮らしやすい社会につながります。

人がつくった川・荒川

水害からいのちを守り、暮らしを豊かにする
長谷川敦 著 旬報社

首都圏をつらぬき、流域に約1000万人が住む荒川。川の流れを変えることで江戸の繁栄は生み出され、度重なる洪水から人々を守ってきました。川の歴史と流域の暮らしの変化を丁寧に追いながら、その過去・現在・未来を旅します。関東大震災を乗り越えた堅固な岩淵水門。建設に関わった青山士^{あきら}の話は必読です。



書誌番号：B12724080

【DVD】大河ドラマ青天を衝け 完全版

脚本：大森美香 / 主演：吉澤亮
NHK エンタープライズ

「近代資本主義の父」渋沢栄一翁の生涯を描いたNHK大河ドラマ（2021年放送）「青天を衝け」DVD全12巻＋総集編が揃いました。特典映像も充実しています。今年7月に新札の顔となる渋沢翁。幕末から昭和まで、激動の時代に翻弄されながらも、高い志を持って未来を切り開いていった波乱万丈の物語を映像でお楽しみください。



書誌番号：B13263445 (ほか)